活 動 名	団 体 名	防府市読書グループ連絡協議会
幼児、小学生読み聞かせ活動推進支援事業	地　　域	山口県防府市
	代 表 者	会長　大田 和子
	支援金額	12万円

活動概要

・平成22年度は、国民読書年にあたる。これを機に絵本の読み聞かせ方、紙芝居の演じ方等の研修会を開催する。
・子どもにとって魅力的なおはなし会とは、防府図書館での読み聞かせ活動、幼稚園、保育園、小学校、公民館等の読み聞かせの場を通じて、つねに検討し、経験を重ねることによる自己啓発の場とする。
・絵本の読み聞かせのプログラムつくりを豊かにするためのパネルシアター、エプロンシアター、ペープサートなどの作成事業の推進。
・子ども読書まつりに参加する。

◆実施時期
(西暦)2010年4月1日～2011年3月31日
場所 防府図書館及び、防府市内各小学校、幼稚園、公民館
◆参加人数
子ども読書まつり(幼稚園、保育園、小学生)400名、(大人)200名
幼稚園、小学校読み聞かせ活動 1,000人
パネルシアター等作成事業 200人

参加総人員 1,800名

幼稚園で紙芝居に見入る園児

児童文学講演会 横山真佐子氏(こどもの広場主宰)
「読んでもらう」から「ひとりよみ」へ

エプロンシアターの作品を子ども読書まつり会場に
展示　大人気であった

防府図書館まつり　わっしょい広場にて
パネルシアター舞台に絵人形を貼り付けて…

◆実施に伴う効果

1. 講演会の開催は、子ども読書推進のための研修の場として、読み聞かせ活動に関心を持つ人に感謝されている。
2. パネルシアター、エプロンシアター、ペープサートは、購入するには資料費がかかるし、作成するには時間的余裕がないということで、幼稚園、保育園、小学校などの読み聞かせ活動に利用度が増えている。
3. マツダ財団の助成金により、乳幼児から小学生まで年齢に応じて上演できるように作品数を揃えることができた。
4. 資料点数が増えると、作品選択の幅が広がり、貸し出し数も増える。
5. マツダ財団助成金により、貸し出し資料点数の基礎資料が整ったが、今後とも資料の増えるのを楽しみながら作成活動を継続していきたい。

◆苦労した点

1. パネルシアター等、作成活動に参加する人は、子育て、孫の守を終えた年代の人が多く、若い人に作成に参加して、若い人の考えを投影して欲しいと思うが、実現が難しい。
2. 子ども読書推進の必要性は叫ばれている。幼稚園、保育園、小学校での読書推進に取り組みがなかなか進まないでいる。小学校、幼稚園、保育園に読み聞かせ活動に行くことが必要であり、要望はあっても、各幼、保、小とも、カリキュラムに追われ、読み聞かせ活動の時間設定が難しい現状がある。
3. ボランティア活動をするのに資金も自分で用意しなくてはというところがある。研修活動、実践活動をすると資金調達までする時間的余裕がないということもある。

◆今後の課題・発展の方向性

1. 今後は、作成したパネルシアター、エプロンシアター、ペープサートなどの使い方等の研修活動を行い、活用していただくことに力点をもっていきたいと思う。
2. 作成作品については、防府市読書グループ連絡協議会として、広報活動を積極的に行い、周知のための努力が必要となる。
3. 読み聞かせプログラム作成の検討
4. 子どもは、早くから保育園にいく。保育園、幼稚園、小学校での絵本読み聞かせがもっと推進される必要がある。読み聞かせグループが積極的に参加することが求められる。

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団のご支援で防府市内の親子、読み聞かせ活動に関係する人たちに、講演会を聞いていただく機会ができました。パネルシアター等は、マツダ財団等の助成金によって作品を作成することができました。防府図書館に寄贈することにより貸し出しができます。防府市読書グループ連絡協議会としては、マツダ財団の助成金でできていることをPRしなくてはと思います。